

令和7年度
岡山市文化芸術推進会議における主な意見

- 1 日 時 令和8年3月24日（火） 10時00分から11時30分まで
- 2 場 所 ほっとプラザ大供 第3研修室
- 3 出席者 委員 8名
- 4 傍 聴 なし
- 5 議 題 (1) 令和7年度事業報告
(2) 令和8年度主要事業について
(3) その他

6 主な意見等

(1) 令和7年度事業報告

○岡山芸術交流 2025 について

(委員)

- ・子どもたちが多く参加していたのは大変よいことだが、現代アート作品のキャプションが難しく、作品の内容も難しいものが多かった。子どもたちからみた現代アートへの反応はどうだったのか。
- ・無料開催による収支はどうなっていたのか。

(事務局)

- ・「朝鑑賞プログラム」や「学校鑑賞支援」など鑑賞に前の事前学習や鑑賞時の解説等により子どもたちに楽しんでもらえる取り組みに努めた。鑑賞に訪れた生徒へのアンケートでは、子どもらしい視点で観賞を楽しむ声が届いた。
- ・全体的な予算は国からの補助金の有無の影響もあり、前回と比べ縮小した。入場料分の収入は減となったが、無料開催にしたことで人件費等、削減できた経費もあった。次回に向けては有料開催も含め検討していく。

○おかやま文化芸術振興事業について

(委員)

- ・作品の発表の場が少ないとの声をきく。岡山駅エキチカひろばショーケースの貸し出しの実績は。

(事務局)

- ・岡山市の文化事業 PR に利用する期間を除き、期間を区切って一般に貸し出しているが、募集枠はほぼ埋まっている状況。ハレノワにもギャラリースペースやアートサロンがある。周知に努めていきたい。

○ハレノワについて

(委員)

- ・大劇場の音響についてクラシック等には向かないという意見があるが、音響反射板の設置等検討しているか。逆に現状の大劇場は演劇などを上演するにはとても適したホール。このまま運用するなら特性を活かした演目をしっかり呼んでもらいたい。
- ・シンフォニーホールの改修により一時的に利用率が上がっているが、改修後に利用率が下がる恐れはないか。

(事務局)

- ・大劇場はオペラや演劇ができるよう、あえて音響反射板を設置せず大きく舞台を使えるようにしている。中劇場は市民団体も利用しやすいよう反響板を設置している。シンフォニーホールとハレノワで機能分担を行っているため、たちまち反響板の追加は考えていない。改修前の稼働率の数値としても、大劇場中劇場共に6割7割の稼働率となっており、全国の他類似施設と比較して堅調にスタートできていると考えている。今までシンフォニーホールや倉敷市民会館を利用していた団体が、改修期間中にハレノワを一時利用し、再度利用していただくことに繋がればと考えている。

○文化施策全般について

(委員)

- ・子どもたちが文化芸術に触れる機会をつくることが重要。観賞だけでなく体験できる機会をしっかりと提供して欲しい。

(2) 令和8年度主要事業について

○市民会館のメモリアルの進捗について

- ・以前の会議で議論をしたが、その後どうなっているか。

(事務局)

- ・モザイクガラスと壁面タイル、中空ブロックについて、それぞれ数百から千程度、予定通りの数量を確保しており、来年度以降都市整備局を中心に何かしらの形で生かしていくことで話が進んでいる。

○障害者による文化芸術活動推進事業について

(委員)

- ・どのような事業社が関わるのか。たとえばディスレクシア（発達性読字障害）の方で芸術面のすぐれた才能を発揮される方も少なくないときく。そういった方の活躍の場となることを期待している。

(事務局)

- ・令和7年度はきらぼしアートセンターや東京藝術大学と組んで行った。令和8年度事業については、現在企画提案を募集している段階で今後、どの事業者と実施するかが決まる予定。

(3) その他

○部活動改革及び地域クラブ活動の推進方針案について

(委員)

- ・指導者研修について、技術面の指導だけでなく、多感な時期の子どもたちひとりひとりに寄り添った指導ができるよう研修に盛り込んでほしい。
- ・希望の種目のクラブが学区内には無くなるということもあるのか。

(事務局)

- ・現状部活動としてある種目を中心に移行をすすめていく予定。逆に今までは通う学校に希望種目の部活がなければあきらめるしかなかったが、今後は学区をこえて希望種目の地域クラブに参加できるようになる。

○西委員・美咲委員・森上委員は7年度末で委員を交代する。

○次回開催は8月から9月頃を予定している。